

船舶事故調査報告書

平成22年4月22日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山本 哲也

委員 根本 美奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成21年1月28日 16時48分ごろ
発生場所	長崎県島原市島原港沖 島原灯台から真方位112°680m付近 (概位 北緯32°46.65′ 東経130°23.32′)
事故調査の経過	平成21年1月29日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等 乗組員等に関する情報	漁船 ^{だいてう} 大東丸、4.0トン NS3-401321（漁船登録番号）、個人所有 12.48m (Lr) × 2.58m × 0.96m、FRP ディーゼル機関、280kW（漁船法馬力数）、平成元年6月5日 船長 男性 59歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 昭和51年4月30日 免許証交付日 平成16年11月22日 (平成22年3月8日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	舵及び船尾外板一部脱落、舵及びプロペラに擦過傷及び曲損
事故の経過	本船は、平成21年1月28日15時20分ごろ、船長と甲板員の2人が乗り組み、したびらめ刺網漁の網設置を行う目的で、島原港を発し、同市三 ^{みえ} 会沖に向かった。 本船は、網の設置作業を行ったのち、16時30分過ぎ、島原港に向け帰途についた。 船長は、操舵室のいすに腰掛けて操舵に当たり、甲板員は船長の隣で立って後方を向いていた。 本船は、前路に所在する干出岩寄りに26～27ノットの速力で航行中、16時48分ごろ、干出岩近くの浅所に乗り揚げた。 船長は、船尾外板が脱落して機関室に浸水しているのを確認し、甲板員に救命胴衣を着用させて船首部への移動を指示し、自身も救命胴衣を準備しているうちに、本船は5分ほどで転覆した。 船長と甲板員は、海上に投げ出され、転覆した本船にはい上がったところを駆けつけた僚船に救助された。本船も僚船によって島原港にえい航された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南東、風速 4.0m/s、視程 36.0km 海象：平穏、潮汐 ほぼ低潮時

<p>その他の事項</p>	<p>本事故発生場所付近は浅所や暗岩が多く危険な海域であるが、船長は、長年付近を航行していることから浅所や暗岩の所在を把握していると思い込んでいた。</p> <p>本船はGPSプロッターを装備しているが、船長は、本事故発生場所付近を、専ら地形などを目安に航行していた。</p> <p>船長は、慣れた海域であることから常時、26～27ノットの高速で航行していた。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし なし</p> <p>本船は、島原港沖を帰航中、船長が、海図やGPSプロッターで浅所を把握していなかったことから、通常のコースで航行しているものと思込み、干出岩近くの浅所に向かって航行していることに気付かず、同浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、係留地に向けて島原港沖を帰航中、船長が、海図やGPSプロッターで浅所を把握していなかったため、干出岩近くの浅所に向かって航行していることに気付かず、同浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>	